

BIPROGY 株式会社

2025 年 3 月期 第 3 四半期 決算説明会 （2025 年 2 月 4 日開催）

主な質疑応答 （ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。）

【質問者 A】

Q：社内システム刷新プロジェクトの進捗状況と、今期、来期のコスト費消見通しは。

A：新たにタスクフォースを組成し、2025 年 1 月からリカバリープランのスケジュールとコストを精査している。本日、「BPR 推進プロジェクト」の設立を発表し、4 月 1 日からは新体制でプロジェクトを進めていく。

今後のコスト費消見通しは現在精査中であり、4 月の通期決算発表の場で説明する予定。今期のコスト見通しは、すでに昨年末にプロジェクトを一旦止めたことから、期初計画と同水準で着地する見込み。

Q：3Q（10-12 月期）のシステムサービスの受注高が増加している要因は何か。

A：前期 3Q には大型のシステム開発案件の受注が複数件あったが、今期は金融機関や小売業向けを中心に中小型案件が増加している。

【質問者 B】

Q：3Q が営業減益だった背景は。また、3Q までの進捗は会社計画比でどうだったか。販管費の増加が想定以上で、利益予想は据え置いたのか。

A：計画比では、社内システム費用が 3Q までで増加し想定外であったこと、営業支援費といった、これからのビジネスにつなげていくための先行費用も増加し、3Q の利益押し下げ要因となった。

なお、3Q まで増加した社内システム費用は、現状、開発を止めているため、4Q は前年 4Q 実績よりも減少する見込み。

人件費は、人事制度改定やベアの影響等により前年同期比では増加しているが、想定通りの水準である。

【質問者 C】

Q：アウトソーシングサービスの機能強化費用は、3Q でどのくらい発生したのか。

A：3Q は 1～2 億円程度であった。3Q のアウトソーシングは、前四半期（2Q）比では、売上収益は他社クラウドサービス売上の減少により減収、利益は 2Q に高収益の一括計上案件があったことから減益、利益率も低下した。

Q：下期にメインフレームの大型案件の計上を見込んでいたかと思うが、3Q で計上されたのか。

A：3Q ではなく、現時点では 4Q にソフトウェアで約 20 億円程度の売上計上を予定している。

【質問者 D】

Q：決算短信 P4「業績予想修正の理由」に「高採算案件の年度内売上計上が現時点で不確定」のため利益見通しは変更しないと記載があるが、この案件の規模感はどうなのか。また、通期見通しには織り込まれているのか。

A：規模としては売上で 10 億円程度、利益もほぼ同額の案件であり、通期見通しには織り込んでいない。案件の内容については、セールス中の案件であるためコメントは控えさせていただく。

Q：社内システム刷新の費用は3Qでどのくらい発生したのか。4Qはどのくらい抑えられそうなのか。

A：3Q累計では、前年同期比で約14億円増加した。期初計画比では3-4億円程度増加している。4Qは前年同期比で5-6億円程度の負担減となると考えている。

【質問者 E】

Q：3Q累計のユニアデックスの売上高と営業利益を教えてください。

A：売上高は1,200億円程度（前年同期比 約180億円増）、営業利益は120億円程度（同 約40億円増）であった。営業利益率は前年同期比で2ポイント程度改善している。

Q：3Qの販管費は想定よりも上振れたコストがあったとのことだが、4Qも継続して増加する可能性は高いのか。

A：現段階でコメントは難しいが、4Qは費消をコントロールしていくつもりである。

以上

（注意）

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。
実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。
また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。
本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。
本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。